

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173000035		
法人名	社会福祉法人 富良野あさひ郷		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム 北の峯		
所在地	北海道富良野市中御料地2067の3		
自己評価作成日	平成24年11月16日	評価結果市町村受理日	平成25年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0173000035-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0173000035-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年12月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当施設は自然に囲まれた場所に建てられており、季節を問わずに出来るだけ散歩へと出掛け、四季を感じて頂けるようにしています。</li> <li>・誕生日外出には、本人の行きたい場所や食べたい物など希望を聞き、出来るだけ希望に添えるような支援をしています。</li> <li>・毎月、各入居者の担当職員よりご家族の方へ定期報告を行っており、また、何かあった時には随時報告も行い、ご家族の要望等も活かせるよう考慮しています。</li> <li>・職員は毎月、内部研修や認知症ケア研修を実施、各入居者に当てはめるなどして、日々のケアに活かせる様な対応となる様に心掛けて常に向上心を持って勉強をしています。</li> <li>・毎月避難訓練を実施、職員全員がいざという時にあわてず冷静に対応出来る事を目標に、入居者と共に行っています。・層に合わせた行事を採り入れ、外出行事では全員で出かけて楽しんで頂いています。</li> <li>・食事は健康面に配慮して、一汁三菜を基本に手作りしています。</li> <li>・衛生面や感染予防の為に毎日消毒や掃除を行っています</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>雄大な十勝岳連峰を仰ぐことができる、そんな位置にこのグループホーム北の峯がある。社会福祉法人として多くの関連施設があり、その中でこのホームは「特別養護老人ホーム北の峯ハイツ」に併設の事業所となっている。介護保険制度が開始された当時、行政からの強い要望で開設された富良野で最初のグループホームである。市街地からは離れた場所ではあるが、利用者が地域で慣れ親しんだ富良野が感じられるように、外出の機会を多くしたり、家族の関わりや知人の訪問を大切にしている。職員も今持っている力を発揮できるような支援に心がけ、笑顔がこぼれてくる姿に、掲げる理念が実践できていると感じている。見守る力を養い、研修やスキルアップには法人が全力を尽くし応援している。そのことが職員の定着率を高めている。今後は法人の運営計画の中で市街地への移転も予定され、増ユニットや終末対応等が検討の対象となっている。今後の対応に大きな期待が懸けられたホームである。</p>
---

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を常に目に入る様にホーム内に掲示して、理念に基づいたケアが提供できるよう日々努めている	管理者と職員が一緒に、利用者の想いに添える内容で作り上げた理念となっている。リビングに掲示することで共有し、利用者の笑顔や日常で力を発揮している様子から、実践に繋がっていることを職員は感じている。四季を通じて外出したり、「私やるよ」「手伝うよ」と自発的言葉も聞かれる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個人の外出や行事での外出を実施、また他の事業所の行事にも参加させてもらったりしています。向かいにある託児所の子供達との挨拶もしっかりしている	近隣では立地の環境から住民の居住が少なく、同法人内の協力関係で交流をカバーしている。しかし、市内の祭りや高齢会に出かけたり、季節を感じることでできる外出行事を多く作り、慣れ親しんだ富良野の社会生活に溶け込める工夫もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや、見学、面会の方より相談等あれば、認知症の方の支援や方法などアドバイスしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の実施は難しいが、会議を実施した際には入居者の状況や行事の様子等報告し、委員の方よりあった意見等についてはサービス向上に活かしています、また、GHの行事へも参加して頂いています	今年3度の開催が予定され、地域包括支援センターの職員・民生委員・タンポポの会・連合会役員・家族代表・職員が委員として出席し、ホームの動向や行事報告(パワーポイントで説明)・市内の状況等を伝え、ホームの運営やサービス向上に活かしている。	今後は、題材や開催日の工夫などで定期的な開催を目指し、地域の方がグループホームに何を感じているのか、また、ホームとして地域に何ができるのか等、会議で意見交換ができて活性化されることを期待したい。さらに、出席していない家族の方へ会議開催後の報告も望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターが実施している、地域ケア会議へ出席して情報交換等行っている、また、ホーム便りを持参して現在の状況等見てもらっている。市の担当者へは月初めに入居者状況や待機者状況の報告をしている	市や地域包括支援センター職員には、運営推進会議のメンバーとして参加いただき、市内の状況報告や意見をいただいている。また、市主催のケア会議に参加することで、各事業所間で情報を共有し連携も図っている。行政の窓口には直接出向き、手続きや相談もしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束についての研修を実施、また、毎月の職員会議でも身体拘束を行っていないかの確認をしている。日中は玄関の施錠はせず、センサーにて対応、職員の出入りの際には声かけを徹底している	契約書に「身体拘束の禁止」を謳い、研修の充実、日常の確認も行っている。止むなくセンサーマットの設置をしている事例については、ケアプランに記述することで定期的にモニタリングを行い、リスクマネジメントの評価、家族を含め安全と予防の理解に努めている。日常で気が付いた時には職員同士が指摘できる環境も構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止法について学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で言葉の制止虐待等見受けられる時は(待ってて、座って等)お互いに注意し合い防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見制度について学ぶ機会を持つているが、今回制度利用を考えられている方の申し込みがあった際、研修のみでの理解では実際のところ良く分からない点も多く、もう少し勉強が必要かと思われた			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはしっかりと説明をして、不安や疑問点にも答えている。また、改定等の際には文書にして契約者へ送付、疑問等にも対応、説明できるようにしている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置している。家族には、面会や定期報告時またはケアプラン送付時に意見、要望等を伺い、運営にも反映させている	家族へは来訪時に口頭で伝えたり、緊急時には電話連絡で状況を報告している。出来るだけ計画作成に反映できるように、事前に家族の意見や要望が聴けるように努めている。今後は毎月通信を発行し、より細かな個別の状況が伝えられ、また、把握できる仕組みを検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回施設長との対話の時間を設けている、また、職員会議の時や日常の業務の中でも意見等述べる機会を持ち運営に反映させている	申し送りや会議の中で、職員は活発に意見交換し、運営やサービスの向上に活かしている。施設長も週に1度利用者・職員と食事をともし、生の声を聴いたり生活を体感している。職員の質向上の取り組みや、スキルアップに向けてのバックアップ体制も整っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努めてきている、契約職員については毎年労働条件の説明が行われ、異動等で実績が認められ正職員にもなれている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、認知症ケア研修は各職員が担当を割り当てられ勉強をする機会を持ち、外部研修についても、職員個々の経験に合わせた研修の参加が行われている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所、GH同士の行事への参加、現状報告、情報交換等を行い、サービスの質を向上していく取り組みをしている。災害時、他の事業所との連携が図れるよう話し合われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人が安心して過ごせる様に不安、要望等を聞いている。入居後には、本人の状態を把握して安心して生活ができるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の際に、不安、要望等を聞いている。また、準備の段階でも、その様な相談があれば対応をして関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や入居契約の際、お話をさせてもらい本人の状態、状況を把握し、必要としている支援について見極め、サービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯たたみ等一緒に協力して行う事で暮らしを共にする者同士の関係を築けるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期報告等で本人の現状を報告し、物品購入、外出、外泊、行事への参加等、必要に応じて協力して頂き共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人、場所との関係が途切れないよう、面会や誕生日外出等実施している。	「誕生日外出」のイベントで利用者の要望を大切に捉え、実施している。培った能力の継続を活かし、畑作業の関わりや得意な習字で行事の案内を書いってもらう、地域で有名なお祭りへ出かける、慣れ親しんだ理容師が来てくれる、自宅へ帰省、家族と食事や外泊など様々な場面作りを応援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの相性もあるので、トラブル等起きない様に職員が間に入ったりしながら、日々の役割や行事等、協力して出来るように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、そこで関係がなくなるのではなく、入院していればお見舞いに伺ったりして、その後の状況等聞くように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の中からも本人の思いや希望をくみ取り、その人らしい生活が送れるように努めている	センター方式の活用や利用者の言動・表情、家族からの聞き取りなどで、要望や目標とする生活を把握している。定期的なアセスメントの継続で、細かな状況の変化を記入する仕組みもできている。担当制の仕組みの中で職員の気付きを本人本位の姿勢として大切に捉え、検討の材料としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人や家族に生活歴を聞き取り、把握に努め、サービス利用の経過についても他の事業所に連携を図り情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、表情や行動等を観察し、現状把握に努めて対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成、モニタリングを定期的に行っている。本人、家族より伺った意見、要望を反映し、介護計画を作成している。	アセスメントは6ヶ月毎、モニタリングは3ヶ月毎行い、より細かなケアができるように検討している。カンファレンスには担当者を交え、計画作成者を中心に家族からの意見を取り入れた明確な目標が見える計画を作成している。日常の記録は介護目標に沿った内容、生活の様子を利用者主体に細かく記載され、モニタリングに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活面、ケアプランと項目を分けた会議記録を毎日記入することで、職員間で情報の共有を行い、ケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診においては、家族での対応もあるが、病院への送迎のみや緊急時はGHで対応するなど柔軟な支援が出来る様取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や誕生日外出の際、地域の方にも協力等をして頂き安心して楽しむ事が出来る様支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約の際、かかりつけ医をどうするか話し合い、本人、家族の希望を大切に、納得をして頂き対応をしている。家族対応での病院受診では、適切な医療が受けられるように現状報告を手紙等にして家族より報告、渡して頂いている	利用者・家族と相談し、かかりつけ医を決めている。基本的には家族による受診介助としているが、付き添えない場合や隣接する病院には職員が同行し、受診結果を報告し、家族が同行した時には、家族から聴いて情報共有している。ホームの状況を書面にして主治医に渡し、身体状況の変化を伝え、ほかの科の受診についても、家族と相談し対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当GHには、看護職員がいないため、併設の特養の看護職員や協力病院の看護師へ相談をして適切な受診等を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、お見舞いに伺ったりして病院関係者との情報交換や相談に努め、病院ソーシャルワーカーとも連携を図り、早期に退院が出来る様、本人の情報やGHでの対応についての相談をさせてもらっている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約や面接の際にはGHでの対応がどこまでなのか説明はしており、入居後も定期的にご家族へ報告を行い、その様な状態になった際には、かかりつけ医や併設の特養も交えて今後についての支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応については、法人内に特別養護老人ホームがあり併設のグループホームとして連携も取れること等から、ターミナルの対応はまだなく、今後の需要や法人の今後の取り組みを交えて検討中である。入居時にホームとしての対応がどこまでかについては説明しているが、書類の見直しや意思確認書として本人や家族の意向を聞きとれる仕組みも検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、急変時や事故発生時に備え対応が出来る様に、内部研修を実施している。また、マニュアルも作成、随時見直しもしている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する避難訓練は毎月行い、年2回消防訓練も実施しているが、地震、水害については、必要な物、避難場所は分かっているが、実際には動いていないため訓練は必要とされる	消防と協力し消防訓練と避難訓練を定期的に行い、職員の各種講習も法人主体で続けられている。運営推進会議では避難訓練について報告があり、地域への周知を図っている。缶詰やレトルト食品を備蓄し、今後はほかの備品や想定される災害時の対応について検討している。	訓練の実践により、現状の対応能力や体制が不十分なことが明確化でき、今後の防災対策の整備に向けて解決の手がかりを得る貴重な機会となる。現在の環境で行政の対応、地域の協力、必要な物品、避難方法、避難場所の周知等、継続的な検討が望まれる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけを心がけ、その人に分かりやすい、伝わりやすい言葉かけで対応をしている	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重し、人格や羞恥心に配慮しながら声掛けしている。職員の守秘義務を徹底し、利用者の写真・氏名の掲示・掲載などの同意書を得、個人情報保護に努めている。各種書類の管理体制も整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、本人の思いや希望が聞き出せる様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中での日課があるので、その様になってしまう事があるが、出来るだけ本人のペースを大切にし、希望に沿って支援している(入浴順番、散歩など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を実施し、化粧品を必要とする方は、担当職員が購入等をして使用できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の給食会議では入居者の方にも参加して頂き、希望の食べ物を献立に取り入れている。食事の準備等については男女問わずお手伝いをして頂いている。食事の際にはテレビは切り、音楽を流すことで食事に集中できるようにしている、また、一緒に食べる事で会話も楽しめるようにしている	利用者と職員が食卓を囲み、食事を楽しむ場面が作られている。食事の前には、準備や下ごしらえ、後片付けを手伝い、今できる能力が活かされる姿がある。季節のイベント、「誕生日外出」やレストランで外食したりする工夫もあり、メニューには麺やパン食、豊富な野菜が盛り込まれ、いただいた食材や収穫した野菜が付け加えられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分摂取量をチェック表につけ、塩分、水分量についてはかかりつけ医とも相談をして調整をしています。水分を嫌う人には代替えの物を提供する、容器を変えるなど工夫をして水分が摂れるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを実施、週1回ポリドント洗浄も実施している。本人の力に応じた口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェック表を付けており、それを基に排泄パターンを把握して声かけ、トイレ誘導をしている。車椅子でおむつ使用者の方も、日中トイレ誘導にて排泄が出来ている	入居時よりできるだけパットやリハビリパンツの使用を少なくするように心掛け、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導をしている。トイレ排泄を基本に、夜間も利用者の習慣にあわせた対応をしている。退院後の身体状況低下改善の取り組みも、積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3回食物繊維の多い野菜や果物、乳製品を入れた特製ジュースを作り提供をしている、また、散歩や体操等運動をする機会を作り便秘予防にも取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務の状況により入浴日は決まってしまうが、本人の希望に沿うよう時間を調整したり、入浴の好きな方については毎回入浴ができるように支援している	週4回入浴日を設定し、2回は入浴できるように対応している。希望により毎回利用もあり、身体状況により2人対応で安全な入浴も支援している。拒否傾向の方には、時間の調整や巧みな声掛けと促しで入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣やその時の状況に応じて自由に休んで頂いている、人によっては持参した寝具を使用したり、日中身体を動かし気持ちよく眠りにつけるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり飲んでいる薬が分かる様に、お薬マニュアルを作成している、また、薬についての研修会も実施している。薬の変更時には、本人の状態変化に要注意で対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意としている事を活かし、出来る事を役割としてお手伝いして頂いたり、コーヒーを希望された時には提供し、気分転換等の支援もしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、散歩で外へは出かける様に支援している。普段行けない様な場所へは行事や本人の誕生日外出など家族や地域の方にも協力をして頂き出かける様に支援している	季節を通して外出を支援している。冬場でも防寒対策を施し、閉じこもりが防げる支援をしている。年次計画には、地域性を活かしたイベントに参加できるように計画され、住み慣れた富良野が実感できるように計画され、多くの機会に出掛けている。外出時には、出掛け先で食事ができる内容もあり、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が難しくなっており、担当職員が定期的に金額の確認等をしている。また、お金を使用する場面も作り支払い等もしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と手紙のやり取りをしたり、電話がかかってきた時には、本人と代わりお話が出来る様に支援している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓からは裏の畑の花や作物が見える様になっており、施設内の温度や湿度はエアコンや加湿器を設置調整することで居心地良く過ごせるよう支援している	リビングを囲む形で居室が広がり、窓からは沢山の日差しが差し込んでいる。温度や湿度が適宜調整され、利用者が快適に健康に過ごせるように配慮している。気になる匂いもなく、清潔が保たれている。来訪者には手洗いやうがい徹底され、感染の予防にも努めている。壁には写真の掲示で、ホームの生活の様子が伝えられ、装飾で季節感も出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や居間のソファとそれぞれ気の合う人と過ごされたり、一人になりたい方は自室で過ごされたりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際にお話しさせて頂き、使い慣れたタンスや寝具、家族の写真と本人が居心地良く過ごせれるように工夫をしている	居室にはベッド、洗面台、机、椅子、クローゼット、カーテンが設置され、利用者は使い慣れた筆筒や寝具、衣類を持ち込み不安なく過ごせるように配置している。作品や家族の写真を掲示することで、楽しんだり家族を身近に感じることができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室等、表札をかけたり、居間は手すりの代わりとしてソファや食卓の配置を考え設置して出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		